

VIVID LETTER

No.35

発行 2025/9/1

「チームはたらき THE かり」	1
研修報告	2
事業所報告	3
ひとこと通信	4
今回のフレスタいちおし	4



“VIVID”は高次脳機能障がい者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィ)
〒161-0033
新宿区下落合 4-20-16 ヲルビ目白 103
TEL : 03-5849-4831 FAX : 03-6908-3364
Eメール hbd-vivid@vivid.or.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>
発行責任者 北村とし子

始動から3年 「チームはたらき THE かり」 ～リーディング劇を通しての成長・快復・つながり～

VIVID が新宿区から委託を受けて実施していた、月 2 回の高次脳機能障がい者のためのミニデイでは、長年リーディング劇に取り組んでいました。

始めたきっかけは、「大きな声を出したり、自由に気持ちを表す遊びをしたら楽しいのではないか」という軽い発想だったと聞いています。ところがこれが参加する皆の気持ちを掴み、段々と本気になり、皆のやる気を引き出したようです。

私が音楽という立場から活動に参加することになった時、リーディング劇の取り組みは既に6年目。形としては、座ったままセリフを言うだけのお芝居ですが、そこには自由で豊かな表現の世界がありました。

その時の題材は‘落語’！ 最初に台本読みが始まった段階から驚きの連続でした。落語の話しの面白さに加えて、演じる一人ひとりの個性が光り、唯一無二の作品へと仕上がっていくのです！

練習のたびに「皆で創る楽しさ」「人と関わる楽しさ」など、それぞれがいろいろと感じていたことと思います。毎年 3 月には発表会をして、観にいらした方々からも好評でした。

チームはたらき THE かり
音楽指導 川口宏美

新宿区からの委託終了でミニデイが終了した 2020 年の春、リーディング劇だけでも続けたい……そんな声もありましたが、新型コロナの感染拡大もあり、実現できずにいました。

しかし、2022 年の夏、再び「リーディング劇をやりたい」という声が上がリ、有志が再会して『チームはたらき THE かり』が生まれました。

初めは、月に 1 度、半日だけの練習からスタートしました。新しい仲間も増え、リーディング劇以外にも、調理や季節の行事(お花見・暑気払い・クリスマス会など)を楽しみながらの活動です。

リーディング劇復活の 1 作目は『あらしのよるに』に取り組みました。ミニデイ時代、一番初めに発表した作品にあえて取り組み、大人の作品としてヴァージョンアップ！

練習日は、まず到着したらゆっくりと準備し、1 日の流れを把握してから練



練習風景

習開始です。体と声のウォーミングアップ、イメージトレーニングで気持ちを一つにしてから台本を読んでいきます。役作り・それぞれの課題にも積極的に挑みました。配役を決めて本格的な練習が始まると、半日では物足りず、午後 3 時まで延長して取り組みました。

活動再開から 1 年半後、深みのある作品に仕上がり、以前より大きな会場で、『あらしのよるに』を発表することができました。

当日は発表の他に展示ブースも設けて、作品の展示や活動の紹介をご覧いただきました。

また、効果音や劇中・幕間の音楽の面でも、表現の幅が広がりました。はたらき THE かりのスタート時からのボランティアの方の力をかりて、PC で音を創り、楽器や音響設備のない場所でも練習・発表ができるようになりました。音



第 1 回発表会

が自由になることで、背景・大道具に頼らない表現の可能性が広がってきています

はたらき THE かり発足から 3 年。この間に新たなご縁がつながり、心理学・音楽療法を学ばれた方、ご家族が高次脳機能障がい者の大学生、医療現場で働く言語聴覚士の方々、映画大学で学ぶ大学生などの参加がありました。多くの方が、はたらき THE かりに注目し、協力いただけることも大変嬉しく心強いです。

現在は、9 月の第 2 回発表会に向けて、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』の仕上げをしています。

セリフの速度、役作り、その瞬間の役の気持ち、深い呼吸、姿勢、表情、相手との間の取り方など、課題をひとつクリアしては、また次の課題へと挑み成長を続けています。出演者への応援に、又 宮沢賢治の世界を味わいに、ぜひご来場ください。一同でお待ちしております。

.....

第 2 回発表会

日時：9 月 7 日（日） 開場 13：00

場所：新宿けやき園（新宿区百人町 4-5-1）

研修実施報告

「制度理解から質の高い支援へ」

4 月の内部研修は「制度」が題材でした。

福祉事業所の目的は大きくいうと「障がいのある方が、地域の中で自分らしく、そして幸せに暮らせるようにお手伝いすること」だと思います。この目的を達成できる技術や知識を得るために職員は研修を受けます。

研修には、お一人おひとりの障がい特性を深く理解し、その方に合った支援技術を習得するものと、就労継続支援 B 型事業所が依拠する「障害者総合支援法」をはじめとした、関連法規や制度について学ぶものがあります。

支援者は支援技術を知りたくりますが、直接的な支援技術が、利用者さんの日々の生活を支える「手足」だとすれば、制度理解は、支援

を確かなものにするための「土台」であり「羅針盤」です。制度の趣旨や仕組みをしっかりと理解することで、利用者さんが安心してサービスを利用できる環境を整え、それぞれのニーズに合わせた支援ができると考えています。

今回の研修では、障がい者福祉の根幹をなす「障害者手帳」と「受給者証」に焦点を当てました。

研修は数人のグループに分かれて答えを出してもらうスタイルで、「障害者手帳は何種類？」という問いかけからスタート。普段から手帳に接している職員でもすぐに答えが出ないこともあり、活発な議論が生まれました。

次に、「手帳を取得していると受けられる➡

就労継続支援 B 型事業所 フレッシュスタート目白

フレスタの活動風景をお届けします。(管理者:遠藤伸)

グループ外出プログラム

外出プログラムの行き先はメンバーで話しあって決めています。職員も話しあいを手伝いますが、交通手段調べやお店への予約など、なるべくメンバー自身で行ってもらうようにしています。今年度はステーキ店や食べ放題店への外食、国立科学博物館、巣鴨散策の4グループに分かれて出かけました。



リユースショップ

先日、区の社会福祉協議会から、事情により洋服を必要とする方への提供依頼があり、詳細を伺い、数着お譲りしました。みなさまからの提供(寄付)品は、ショップで販売し利用者の工賃となる大切なものです。しかし、今回のように地域で必要とされている方々に直接支援することも、地域貢献をめざすフレスタの重要な役割だと考えています。



「サービス」について具体的に意見を出し合いました。様々なサービスを挙げながら、職員一人ひとりの知識が共有され、相互理解が深まる機会となりました。最後に「どうして手帳を取得しているとサービスが受けられるのでしょうか?」という問いをグループで考えてもらいました。この「なぜ」を理解することは、非常に重要です。「障がい者だけ割引があって不公平だ」というような意見に直面した際、制度の趣旨を理解していなければ、適切に説明することができません。今回の研修を通して、サービスの背景にある「誰もが暮らしやすい社会を目指す」という法人理念を改めて共有できました。

続いて「受給者証」についてです。普段の支援の中でじっくりと受給者証を見る機会は少ないですが、どのようなサービスを、どれだけ利用できるのかを示す、非常に重要な書類です。研修では、名前を伏せた受給者証を見て、どなたのものかを当てるクイズを行いました。これにより、受給者証に記載されている情報の重要性について、職員一同の理解がより一層深まりました。

研修で得た学びを活かし、職員一同、より質の高い支援を提供できるよう努めてまいります。

(フレスタ管理者:遠藤伸)

ひとこと通信

フレッシュスタート目白（フレスタ）の利用者さんのコーナーです。

S・Nさん

◆フレスタへ通ってどれくらいですか？

2年半くらいになります。
週3日で通っています。暑い日はバスを利用していますが、それ以外は歩いて来ています。歩くのもリハビリだと思っています。

◆フレスタでの活動を教えてください

自主製品作りで、フェルト素材のおまごと用品(右の写真)や刺し子をつくっています。



目玉焼き、レモン、ねぎりんご、おにぎり

リユースショップの商品整理や品出しをしたり、POPを描いたりもしています。

商品の品出しは、以前他のショップでも働いていたこともあり、楽しくおこなっています。

嬉しかったことは、毎年12月に新宿駅西口で開催される共同バザールのポスターをみんなでつくれた(*)ことです。

◆これから頑張っていきたいことはありますか？

フレスタのリユースショップで、売りたい布や生地がたくさんあるのですが、どうしたらお客さんの目に止まるか、使い方がわかれば購入してくれるか？ など考えながら陳列に工夫をしていきたいです。

私が倒れて入院した時、コロナ禍でした。病院は面会制限がありましたが、そんな中、友達からのビデオ通話、手紙をもらい励まされました。

友達がいなかったらリハビリは頑張れなかったと思います。

最近、足を悪くしてから行ってなかった歌い手さんのライブに行き、3時間半立ちっぱなしでしたが、持ちこたえることができました。



作業中のS・Nさん

*共同バザールのポスターは、毎年参加団体または所属の個人が応募した作品の中から選ばれます。今年、フレスタは団体で応募しました。結果は本紙作成時未定。

ご寄付の報告

この紙面を使って、ご寄付の報告を行っています。

●VIVIDへのご寄付

VIVID LETTER 前号の報告後・2025年2月1日～2025年7月31日までのいただいた寄付金の合計は、延べ20人、435,000円でした。

●フレッシュスタート目白へのご寄付

毎日、たくさんの品物をご寄付いただいています。
2月119件、3月95件、4月139件、5月166件、6月106件、7月112件でした。

お知らせ

○フレスタが出店予定のイベント

自主製品などを販売します。ご来店ください。
サブナード販売会…9月25日(木)、26日(金)
落合斎場地域感謝の集い…9月28日(日)
新宿区障害者センター祭…10月26日(日)
新宿駅西口共同バザール・障害者作品展…
12月3日(水)、4日(木)

ご寄付のお願い

ご協力はいつでも受け付け中！
よろしくお願いします。

【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店 普通 7854639
ゆうちょ銀行 記号 10130 番号 91768901

他金融からのお振込みの場合

店名 ○一八(ゼロイチハチ) 店番 018
普通 9176890

【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312

名義・加入者名はいずれも特定非営利活動法人 VIVID

今回のフレスタいちおし IZUMI

今回のいちおしは、「西池袋のおうちパンや IZUMI」さん。おうちの一角をお店に改築して、木・金・土の週3日だけ開店の小さなパン屋さんです。

ご縁があって、フレスタ自主製品のひとつ・愛犬用クッキーを店頭に置いてくださることになりました。

IZUMIさんのパンやお菓子は、生活クラブ生協の国産小麦、鶏卵、無添加ソーセージなど安心安全な食材を使って焼き上げています。「クロワッサンがおいしかった！」とは、フレスタスタッフの弁です。池袋方面の方、ぜひおたずねください。

(左の写真)
こんな風に置かせてもらっています

住所――
豊島区西池袋 3-6-22



水谷泉さん@お店入口

編集後記

VIVID ミニデイから発展した「チームはたらき THE かり」がいろいろなつながりをつくっているのを見習いたい。
IZUMIさんのように、クッキーや手芸品を店頭に置かせてくださるお店、大募集です。(金尾)